

## 審査の結果の要旨

氏名 山田 義文

論文題目 個性豊かな生活を継続可能な高齢者居住環境の計画に関する研究

本論文は、高齢者の居住に関連する環境に関して、ケア付集合型ホーム、在宅、そして地域公共空間の視点から、高齢者や介護スタッフに対する実態調査を通して、高齢者が現行制度の下で安心して、自身の希望に沿った個性豊かな生活を続け得る高齢者居住環境の計画を策定することを目的としている。

本論文は、8章で構成される。

1章では、高齢化問題や社会的背景、本研究の目的、方法、論文全体の構成を示している。また本論文でノルウェーを研究フィールドの一つとした理由を示している。

第2章では、集合住宅型ケアホームで暮らす高齢者の居住環境の実態をとらえる上で、ノルウェーの Life time care home (以下 LTCH) を調査対象とした意義を説明するため、ノルウェーにおける高齢者ケアシステムの特徴を日本と比較して記述している。

第3章では、LTCHの成立経緯・計画理念、定義と特徴を整理している。その各タイプ中から先進的事例を選定し、諸室の面積配分の分析、平面配置の特徴等を考察している。

第4章では、LTCHの実測・観察・居住者やスタッフへのヒアリングにより図面では読み取れないインテリア等の装飾、居住者の暮らしぶり、スタッフの労働環境など各ホームの運営方法の現状を記録している。また、居住者の親族に対して、運営や居住者の暮らしに関するアンケート調査の結果の分析・評価をおこない、ホームの向上につながる要素を考察している。

**第5章以降は住み慣れた地域の在宅の高齢者居住環境を扱っている。**

5章では、人的支援について、調査対象をホームヘルパーの支援と地域住民のボランティア的な地域通貨システムに焦点を当て、ホームヘルパーの労働環境アンケート調査と地域通貨の登録メニューリスト・流通状況分析を基にして在宅高齢者のニーズと人的支援を行う側の現状・課題について考察している。

第6章では、公的支援制度利用の高齢者住宅改修の現状と課題について、改修データ分析と実態調査を基に考察している。雁木形式の伝統的町家で暮らす、あるいは多積雪で気候条件の厳しい中で暮らす高齢者の実態を調査し、個性豊かな生活を在宅で続けるための改修を限られた予算に対して他の支援制度と組み合わせて活用する方法を考察している。

第7章では、ケアホームあるいは在宅双方にとって関係のある地域の公共建築物の高齢者利用を円滑にするために配慮されるべき内容について、日本のハートビル法や福祉のまちづくり条例とノルウェーの自治体で自主的に定められているガイドラインを比較して、実際の街中での配慮状況を分析しながら誰もが利用しやすい建築的配慮について多角的に検証している。

第8章では、3章、4章の施設（LTCH）での調査、5章、6章の在宅調査を総合して個性豊かな生活を継続可能な高齢者居住環境の計画に求められる要素を抽出し、7章の公共建築物への配慮に関する考察結果をあわせて日本の高齢者ホーム計画に対する提言を述べている。

そして、高齢者ホームと地域を結びつけるための方策について、ケア提供側や住環境計画側双方の働きかけに加えて、居住者である高齢者側からの働きかけ、そして提供、被提供両者からの働きかけ、それぞれに問題点を整理して結論としている。

以上のように本論文は、高齢社会において居住施設、在宅、そして地域の公共施設それぞれと、日本とノルウェーのケーススタディを通して、分析を行い、また管理運営側や地域住民の視点も入れて、今後の自立的に選択できる個性豊かな高齢者居住環境のあり方について提案しており、高齢者施設に関する問題がさまざまな点で表面化しているわが国の現況で、実地調査に基づいた分析により問題の構造を究明して基本的な知見を示し、建築計画学の発展に大きな寄与をしたものである。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。